

私たちは「共創」を異なる立場の者たちが「つどう、つながる、つくりあう」ものと考え、社会と大学とのつなぎ目となり共に未来を創ることをミッションに掲げます。しかし苦境に置かれている人を置き去りにすることなく、彼らと共に生きることを説く私たちの営みが「大学」という権威の発する上からの啓蒙と実践の色彩を帯びることも否定しがたいでしょう。私自身は大学の端っこにいる一介のポストドクでしかないのですが、しかし時折「博士（人間科学）」として「大いなる力には、大いなる責任が伴う」なんて思わないといけなことがあります。傲慢ですね。しかし「学知」が抱える力の横暴さから目を背けて「共創」を論じることはより重い罪でありましょう。現場の外から分析するにせよ介入するにせよ、「知」を社会に実装し、未来を共に創ると言うならば「力」を行使する者としての覚悟が必要です。ここに収められているのは学知のもつ力の使い方に悩みながら、それでも未来を共に創るために私たちが払ってきた努力の成果です。願わくは本ジャーナルがあなたにも力を与えるものでありますように。

『未来共創』第10号には論文3本、特集（対談1本と論文3本）、フォーラム（論考1本とコメント2本とそれぞれへの応答2本）、研究ノート1本、報告4本、書評1本が掲載されています。特集「人口減少への共創的アプローチ」には災害復興、街づくり、社会学の分野から興味深い論文をご寄稿いただいたほか、様々な分野の研究者に対談へご参加いただきました。岸田文雄首相は2023年年頭に「異次元の少子化対策」を提案しましたが、私たちは人間科学的な共創のアプローチによって地道に人口減少という難問と向き合いました。私たちはただちに問題を雲散霧消することができるとは言いません。そこに「異次元」の派手さはないかもしれません。学際的で様々な分野の論考を収録する本ジャーナルですが、現実を直視して真摯に問いに挑む誠実さは特集論文のみならず全論考に共通しています。

最後に皆様に感謝を。まずはご投稿いただいた皆様に。力作をありがとうございます。おかげさまで立派なジャーナルになりました。校正とDTPをご担当いただいたレカボラ編集舎の小野寺佑紀さんに。本誌のアピールポイントは内容の充実もさることながら、誌面のレイアウトの美しさです。編集委員の先生方に。あたふたした事務局と気長にお付き合いいただきありがとうございます。附属未来共創センタースタッフの皆様に。いつもいつもありがとうございます。そして読者のあなたに。読んでいただきありがとうございます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター・特任研究員
織田 和明

発行 2023年3月31日
大阪大学人間科学研究科附属未来共創センター
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

編集協力
レカボラ編集舎 小野寺佑紀
デザイン 有限会社ブックポケット